

第1回てだこサンサン杯 第62回那覇地区春季中学校軟式野球大会要項

- 主催** てだこサンサン共同企業体・沖縄県野球連盟
- 主管** 沖縄県野球連盟那覇支部
- 期日** 令和4年4月23日(土)24日(日)29日(金)30日(土) 予備日1日(日)
- 会場**

令和4年4月23日(土) 8:30(リーグ戦)	金城中学校、石田中学校、首里中学校、城北中学校 石嶺中学校、仲井真中学校、神森中学校、ANAボールパーク浦添
令和4年4月24日(日) 8:30(リーグ戦)	金城中学校、石田中学校、首里中学校、城北中学校 石嶺中学校、仲井真中学校、神森中学校、ANAボールパーク浦添
令和4年4月29日(金) 8:30(トーナメント)	ANAボールパーク浦添、浦添中学校
令和4年4月30日(土) 8:30(決勝)	ANAボールパーク浦添
令和4年5月1日(日) 9:00(決勝戦)	浦添中、仲西中
- 参加資格**
 - 沖縄県内の中学校に在籍する生徒で編成されたチームとする。なお、1校1チームとする。
 - 県・地区中体連の規定及び各学校の規則に沿った中学生らしい身なり・容姿であること。
 - 硬式ボールを使用球としている団体に所属しているチームとその構成員の出場は認めない。
 - 1チームは、選手20人、記録員2人、監督1人、コーチ2人の計25人とする。
 - 選手の引率は、出場校の校長・教員とする。監督については校長・教職員(常勤)とする。教職員以外のコーチについては、学校長の認めた者で、地区・県に登録された者とする。但し、ベンチ入りについては1名のみとする。
 - 参加資格の特例を認める。「開催基準8(6)複数合同チーム」(県に準ずる)
- 企画運営責任者** 那覇地区中体連野球専門部
- 競技規則**
 - 2022年公認野球規則及び全日本軟式野球連盟特別競技規則、特別規則を適用する。**投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、下記の通りとする。**
・大会中の1日の投球制限・・・100球
・1週間の投球数・・・350球
※試合中規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するか、攻守交代まで投球できる。
- 大会規定**
 - 競技方法は準々決勝まではリーグ戦としそれ以降はトーナメント方式で行う。
 - 試合は7回戦とし、得点差によるコールドゲームは3回以降10点差、5回以降7点差とする。(なお、決勝戦にも適用する。)また、日没、降雨のコールドゲームについては全試合5回以降成立とする。日没・降雨などで試合が成立しない場合は、特別継続試合を適用する。(サスペンデッドゲーム)
 - 試合が7回を終了して同点の場合は8回からタイブレーク方式(特別延長戦無死1、2塁)を行い、10回までに決着がつかない場合は抽選を行う。(決勝戦の場合は、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決するまでタイブレーク方式を続行する。)
- 使用球** 全日本軟式野球連盟公認内外ボールM号球とする
- 組み合わせ**
 - 令和4年3月に本部抽選を行う。
 - 抽選は、野球専門部で行う。
- 表彰**
 - 優勝チームには優勝旗及び賞状、準優勝チームには準優勝杯及び賞状、3位のチームには賞状を与える。また、個人賞として、殊勲賞・敢闘賞・打撃賞を表彰する。
 - 個人賞は決勝進出校から選出する。また、打撃賞に関しては規定打席(1試合×2打席以上:準決勝から決勝戦までとする)に達している選手で、1人を選出する。
- 参加申し込み**
 - 大会参加申込用紙は那覇地区中体連野球専門部HPからダウンロードし、必要事項を入力し、プリントアウトしたものに学校長の捺印を受け、原本1部を**当日球場長**に提出する。
 - 大会参加料10,000円を支払う。5月の中体連専門部会の時に徴収します。
- その他**
 - チームの責任は、引率者において、一切負うものとする
 - 抽選は、各学校の監督が行う。
 - 今大会の勝者にはポイントを与える。ベスト8=2P ベスト4=3P 準優勝=4P 優勝=5P

第1回てだこサンサン杯 第62回那覇地区春季中学校軟式野球大会細則

- 1. 試合時間**
 - (1) 試合は1時間30分と計算し、その60分前までには集合する。
 - (2) 連続試合の場合は間隔を30分とする。
- 2. オーダー交換**
 - (1) オーダー用紙は大会本部の用紙を使用する。(4部提出)
 - (2) 攻守決定は、前の試合の4イニング終了時(第1試合は試合開始45分前)に監督立ち会いの上、主将が行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。
- 3. ダッグアウト**
 - (1) 抽選番号の若い方が1塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動しない。登録された監督、コーチ、選手、記録員以外のベンチ入りは禁止する。
 - (2) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止。
 - (3) ダッグアウト内でのメガホン使用は監督、コーチのみとする。(ベンチ内1個とする。)
- 4. シートノック**
 - (1) シートノックは、全試合後攻より行う。時間は5分間とする。
 - (2) シートノック時のみ、登録外の補助員(5名以内)を認める。なお、ユニフォーム、ヘルメットを着用すること。
 - (3) ノッカーは、ユニフォームを着用する。
 - (4) 1日で2試合を行うチームは、シートノックを1試合目のみ行う。なお、天候などにより球場を移動して試合を行う場合は、本部に確認の上、シートノックを行う場合もある。
※天候の理由でシートノックを行わない場合もある。
- 5. 応援**

~~(1) 選手・応援団は中学生としてふさわしい応援をする。(野球はつよし)~~
~~(2) 応援は攻撃側のチームが優先に行う。~~
- 6. 守備側と攻撃側のタイムの回数制限**
 - (1) 捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は、7イニングで3度以内とする。なお、延長戦(特別延長戦も含む)となった場合は、2イニングに1度行くことができる。また、攻撃側についても同様とする。
- 7. 監督が投手の所へ行く回数の制限**
 - (1) **監督が1試合に投手のところへ行ける回数は、7イニングで3回以内とする。なお、タイブレーク方式となった場合は、2イニングに1回行くことができる。**
 - (2) 監督が同一イニングに同一投手の所へ2度目に行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。なお、他の守備についたときは、同一イニングには再び投手には戻れない。
- 8. 用具**
 - (1) バットリング、トレーニングバット、スプレー(滑り止め)の使用を禁止する。(但し、マスコットバットは使用可)
 - (2) 手袋・リストガードは、原則として「白」または「黒」を主にした高校野球対応の手袋を使用する。
 - (3) ストッキングの形をしっかりと統一する。
 - (4) 全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が完全に消えた用具は使用できない。
 - (5) 捕手は全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った捕手用ヘルメット・マスク・スロットガード・プロテクター・レガースとファウルカップを使用すること。また、打者・走者・次打者・ベースコーチ・バットボーイは全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った両側にイヤークラップ(内側にはスポンジ等)のついたヘルメットを使用すること。
- 9. 試合のスピード化**
 - (1) 打者・次打者・ベースコーチの4名は攻撃前のミーティングには参加せず、所定の場所に移動すること。
 - (2) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。
 - (3) 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
 - (4) 投手が投球動作に入った場合、ネクストサークルの次打者は座ること。
 - (5) サイン交換は迅速に行うこと。打者はバッターボックス内でサインを見る。
- 10. その他**
 - (1) 背番号は1~20番を使用し、原則としてポジション順とする。
 - (2) チームの選手(監督・コーチ含む)は同色、同形のユニフォームを着用する。グラウンドコートも同様とする。尚、監督・コーチのシューズについても同色とする。コーチ(教職員)の服装は平服でもよい。また、記録員はユニフォームか制服とする。
 - (3) 選手交代は、監督が球審に告げること。
 - (4) 球場内においての試合前の練習はユニフォームを着用すること。
 - (5) 芝生保護のため各球場において正規のシートノック以外はスパイク以外で行うこと。
 - (6) 球場内のバッティング練習は、バント・トスバッティング(1対1)までとする。
 - (7) 試合中のアップ(キャッチボール)については2組(4名以内)とする。
 - (8) ランナーズコーチ・アップ2組及び投手が走者で塁に出た場合は、グラウンドコートを着用してもよい。
 - (9) 審判は各校からできるだけ成人4名とする。厳しい場合は3年生の野球部員で行う。球審は成人で行う。
 - (10) 準々決勝からは那覇地区中体連野球専門部職員で行う。
 - (11) 各チームのゴミは必ず責任を持って持ち帰る。最終試合の両チームは、ダッグアウト、スタンドを清掃する。
※ 大会参加に当たり、氏名、学校名、学年及び対戦結果、記録、画像等を主催者が発行・販売する大会

冊子、出版物、ホームページ、及びマスコミへの公表に使用することがあります。